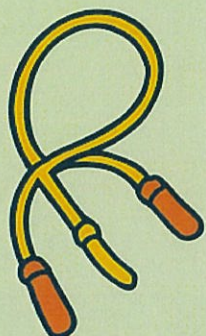


佐賀大学教育学部附属小学校 研究発表大会



体育科当日資料

【研究テーマ】

動き方を意識しながら
運動の楽しみ方を広げていく
体育科の授業づくり

2025 年 7 月 24 日



佐賀大学教育学部附属小学校

「まとあてハンドボール」

たくさんなげて、たくさんあてて、
たのしもう！

宮司健太郎

1. まとあてハンドボールについて

まとあてハンドボールには、2つのねらいがあります。

1つ目は、ボールゲームにおいて「素早く動くことの大切さ」に気付くことです。ゲームの中で、「ゆっくり動いては得点できない」という体験を通して、児童が「得点するには素早い動きが必要だ」と実感してくれることをねらいとしています。そして、その気付きから、得点を目指して積極的に速く動こうとする姿が見られることを期待しています。こうした「素早く動く意識」は、今後のボールゲームやボール運動にも生きてくると考えています。

そこに気付くことができるようにするためには、まず投げる動きについての共通理解が重要です。シュートでもパスでも、「狙った方向に正確に投げること」が基本であり、その際には踏み込み足を出すことが大切な動作になります。目標物や距離によって投げる強さや足の出し方は異なりますが、踏み込むことで体のバランスが安定し、正確に投げられるという感覚を身に付けさせたいと考えています。こうした基本的な投げ方ができるようになると、2対2のゲーム形式の中でも、正確なパスやシュートと素早い動きが結び付き、効果的なプレーにつながると考えています。

2つ目は、チームワークです。2人対2人というゲームの中で、パスをしてゴールを目指す中で協力したり、3人または4人チームで勝利に向かって、学び方を高めていったり、友達の成功のためにサポートし、できたことを一緒に喜んだりするなど、チームスポーツで大切なチームワーク・仲間意識を育てていきたいと考えています。あえて、接触の恐れのある攻守の入り乱れるゲームにすることで、ルールを守ったり、相手も楽しく活動できるように思いやったりしながら、スポーツパーソンシップを育ててほしいと思っています。

2. 本時までの単元の流れ

本時に至るまでの単元の流れを、児童の主な活動と教師の関わり・手立てという2つの軸で以下に示します。また、実際の児童らの活動の様相について図や写真等を用いて明示していきます。

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
課外 七月三日朝	○どんなゲームをするか見通しをもつ。 ○チームのメンバーを知る。 ○チームカードの使い方を知る。 ・チーム名を決め、色を確認する。	○まとあてハンドボールの様子を動画で見せ、どんなゲームを行うのか、共有しました。 ○メンバー表を貼りだし、チームのメンバーの確認を行いました。一緒に活動する仲間であることから、チームのみんなが楽しかったと思えるように互いのことを思いやって活動しようと話をしました。 ○誰が得点したか分かりやすくするために、メンバー1人1人の色を決め、得点をしたらその色のシールを貼ることを説明しました。また、全員が得点する喜びを味わえるように、単元後半に点数を入れた人数が多いチームを表彰するので、集計の仕方も説明しました。

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
第一時 七月三日	○まとあてハンドボールの行い方を知る。 ・1つのチームを使って実演しながら、1つずつルールを確認する。 【ルール】 ・2人対2人(1チーム3, 4人) ・的にボールを当てたら1点 ・ボールを持っているとき進まない ・片手でボールを投げる ・相手や相手のボール、的に触わない ○準備をする。  ○ゲームⅠをする。  ○困ったことを共有し、ルールの再確認をする。 ○ゲームⅡをする。  ○本時を振り返り、探究テーマを決める。 ・まとあてハンドボールの楽しかったところやこれからしたいことを共有する。 【探究テーマ】 いっぱいながて、いっぱいあてて、たのしもう!	○実演しながら、ルールのお話をしました。ボールを投げて狙うこと、近付いた方が当てやすいこと、ボールを持ったら動いたらいけないこと、近付くためにはパスをすること、相手は的に当てさせないようにすることなどをみんなで確認しました。また、スポーツパーソンシップについても伝え、チームみんなが楽しむことも大切だし、相手がいるからゲームができていいるから、相手も大切にしないといけないよと話しました。 ○それぞれのチームが準備をする場所の確認をしました。毎回同じ場所を準備するようにすることで、速く準備ができるようにしました。 ○得点することが楽しいので、得点できたことを褒めたり、ボールを持っている児童に、「どこに投げる?」と問いかけたりしながら、「ナイスシュート!」「ナイスパス!」とボールを投げ、ゴールを狙ったり、前に進もうとしたりした姿を価値付けました。 ○体育が嫌いな児童(赤4)に、的か味方にボールを投げるのと味方がボールを持ったら前に行くことの2つの動き方を教えました。 ○児童から困ったことは特に出ませんでした。ボールを持ったら進んではいけないことと応援する場所がゴールに近すぎて危ないので離れることをもう一度確認して、ゲームⅡを行いました。 ○本時で楽しかったこととして、ゴールを決めたことやパスができたことが挙げられました。これからまとあてハンドボールでどんなことがしたいか尋ねると、ゴールをする以外にも、パスをつないだり、「楽しくしたい!」という声も出てきたりしたので、それをもとに探究テーマを作りました。
第二時 七月十日	○2つの投げ方について考える。 ・的に向かって投げる「シュート」と仲間にボールをつなぐ「パス」の違いについて考える。 ・シュート・・・力強く、思いっきり ・パス・・・キャッチできるように、ふわっと、優しく、高く投げると相手に取られない  ○準備をする。  ○ゲームⅠをする。	○まとあてハンドボールでは、2つの投げ方があることを共有しました。1つは、的に向かってゴールを目指して投げる「シュート」です。もう1つは、ゴールに向かうために仲間に投げる「パス」です。それぞれ何に対して投げるのか、どういう風に投げるとよいのかなど、2つの投げ方の違いを確認しました。的当てゲームの経験から、どちらにも共通して大切なこととして、狙った方向に投げるために、投げたい方向に足を出すことを共有しました。 ○1時目同様、ゴールをした時に一緒に喜び、まとあてハンドボールの楽しさを感じることができるようになりました。また、狙った方向に投げるために、足を1歩出して投げている姿

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
	○話を聞く。 ○ゲームⅡをする。  ○本時を振り返り、次時のめあてをもつ。 	を価値付けることで、そのよさ実感できるようにしました。 ○試合の入れ替わりを速くし、たくさんゲームができるように、誰が出るか次誰が出るか確認することを話しました。 ○ゲームⅠの関わりに加えて、始めに確認した「シュート」と「パス」について、「強く投げることができたね!」や「ふわっとパスをつなげたね!」などと、「力の強さ」という運動の視点をもとに、価値付けを行いました。 ○チームごとに振り返りをする中で、「全員得点できたか」「どんなことが分かったか」などを尋ねました。誰が得点できていないかを確認し、まだ得点できていない人が得点するためにはどうしたらよいか考えました。
第三時 七月十七日	○準備をする。 ○ゲームⅠをする。 ○ゲームⅡをする。 ○ゲームⅢをする。 ○本時を振り返り、次時のめあてをもつ。    	○ゲームに慣れてきたので、本時から3ゲーム行うこととしました。また、攻撃パターンが大きく3つ見られていたので、それを図示したものを黒板に掲示しました。 ○まだ得点ができていない児童を中心に言葉をかけ、どうしたらよいか一緒に考えました。特に、黒チームはそれまでに1点しか入れることができていなかったため、ボールを持ったら前に動くことを指示と価値付けによって意識できるようにしました。本時では2点取ることができ、「もっと速くしないといけない」と素早く動くことの大切さへの気づきを述べて、チームで共有することができました。 ○1人以外なかなか得点ができないオレンジチームは、黒板の図を基に話していました。3つの図の中で、細かくパスをつなぐことが自分たちにはよいと考え、それをチームで共有していました。得点できている児童は他の2人にも得点をさせたいと考え、パスを回し、他の2人はそれに感謝するなど、素敵な関わり方ができていました。 ○守りが上手になってきたので、なかなか得点ができないチームが増えてきました。細かくパスをつないで進もうとするチームが多い中で、「守られると得点しにくいね…どうやったら守られずに得点できるかな?」と速さを意識して活動できるように問いかけました。 ○チーム全員が楽しくなるように、思いやり、言葉をかけあっている姿を価値付けしました。

3. 児童のデータ（集計）

①児童のめあての変容

	2時目	3時目	4時目
めあて① ボールをゴールしたい	15	10	10
めあて② パスをつなげたい	7	10	6
めあて③ 速く動きたい	8	2	7
めあて④ 上手に守りたい	2	10	7
めあて⑤ 友達の良い動きを見付けたい	2	2	4

②振り返りの内容の分類

	1時目	2時目	3時目
シュート	10	24	18
パス	12	2	8
キャッチ	1	1	0
速さ	0	0	0
守備	1	2	1
勝敗	4	3	1
友達	3	0	3
その他	4	1	1
作戦	0	2	3

③チーム別ゴール数

	1時目	2時目	3時目	集計
赤	4	3	3	10
青	5	2	7	14
緑	4	6	2	12
レモン	4	2	6	12
ピンク	2	5	5	12
白	2	5	0	7
黒	1	0	2	3
もも	8	6	5	19
オレンジ	2	7	3	12
黄	1	2	5	8

④チーム別ゴール人数

	1時目	2時目	3時目	合計
赤	3	4	2	9
青	3	3	5	11
緑	4	2	2	8
レモン	4	2	6	12
ピンク	2	4	5	11
白	2	4	0	6
黒	1	0	2	3
もも	7	5	4	16
オレンジ	2	5	3	10
黄	1	2	5	8

⑤チーム別初得点人数

	1時目	2時目	3時目	合計
赤	2	2	0	4/4
青	1	1	0	2/4
緑	3	0	0	3/4
レモン	2	0	2	4/4
ピンク	2	1	0	3/3
白	2	1	0	3/3
黒	1	0	1	2/3
もも	2	1	0	3/3
オレンジ	1	1	0	2/3
黄	1	0	1	2/3

①児童のめあての変容

4時間目のめあてで速さに意識が向く児童が増えた。素早く動こうとする姿を価値付け、よりスピード感のあるゲームにしたい。

②振り返りの内容の分類

まだシュートにこだわって振り返っている児童が多い。この運動遊びの面白さをしっかり味わい、次の思考へつなげていきたい。勝敗のみにこだわる児童は減ってきた。

③チーム別ゴール数

④チーム別ゴール人数

⑤チーム別初得点人数

全員が得点できているチームもあれば、まだ得点をできていないチームもある。得点する児童やチームの傾向を探り、単元の間全員に得点をさせるために、役立てたい。

本時までの単元の流れ（公開授業Ⅴ 6年生 前山純平 実践）

本時に至るまでの単元の流れを、児童の主な活動と教師の関わり・手立てという2つの軸で以下に示します。また、実際の児童らの活動の様相について図や写真等を用いて明示していきます。

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
第一時 七月十日（木）	○学習の進め方や資料の使い方を知る。 	○マット運動が好きではないという児童が学級の51%いたので、技ができた時の喜びを味わわせたいということと、技ができるようになる過程の面白さを味わわせることの2つを柱に授業づくりを考えました。 ○基本的な1単位時間の流れとして、掲示物を用いて以下のように説明しました。 1 時間の流れ ・準備、めあてに沿った準備運動 …5分 ・グループで個人のめあての確認・共有…5分 ・活動 …25分 ・片付け …3分 ・ふり返り …7分
	○器具の準備、準備運動をする。  器具を大切に扱うこと、安全に準備することのため、必ず2人以上で運ぶようにしています。	○マットは1グループに4枚ずつ準備しました。その4枚のマットをどのように配置するかもグループに委ねています。活動に沿った配置になっているか確認して回りました。
	○技調べをする。  できたかどうかは、グループで見合っ て判断していきます。これを基に、め あて1、めあて2が 決まります。	○安全面からマットの上で技に挑戦しているのは1人にするよう、言葉かけを行いました。また、活動時のカードや筆記用具の配置についても、場の安全に気を配るよう確認しています。
	○探究テーマを決定する。  学級の大半の児童が「技ができた時が1番面白い」と答えました。だから、どうやったらできるようにするか考えなくては行けないと。そのことから、探究テーマを決定しました。	○実際に技調べを行っていく中で、どの技に取り組むか悩む児童には、技のポイント資料で簡単な系統を示し、その初めからチャレンジしてみるように言葉かけを行いました。
		○技調べにおいて採点カードを使っていた児童が見られました。実技の時間が限られていることもあり、使い方について再度、次時の最初に確認することにしました。
		○マット運動をやってみて感じた面白さを問いかけました。児童が感じた面白さに紐付けて一緒に探究テーマを決め、次時以降も探究テーマをもとに学習を進めていくことを確認しました。 ○2時目のめあてを立てて本時を終えることとしました。簡単に技名を書けば良いことを確認し、めあて1、めあて2で取り組むことを自分で考えたり、活動の様子を見ていた友達からのアドバイスで決めたりするようにしています。
	探究テーマ 「どうやったら、技ができるようになるだろう」	

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
第二時 七月十五日 (火)	○器具の準備、準備運動をする。 ○グループで個人のめあての確認・共有をする。 ○全体での確認事項 ・シューズを脱ぐときは靴下も脱ぐ ・長い時間の活動になるので、気持ちを抜かず安全第一を心掛けて ・技を増やすために、できそうな技からどんどんチャレンジする。技が増えれば、めあて1が豊かになる。 ○活動する。 ・技の獲得が少なかった児童 「0」→2名 ②I.K ③M.Y 「1」→12名 ①A.S ③E.H ⑤O.M ⑦K.H ⑧K.T ⑨S.M ⑫S.K ⑬N.R ⑮M.S ⑲M.A ⑳Y.R ㉔Y.M ○本時の伸び ・技の獲得数の変容 「0」3名→0名 「1」12名→3名 ②I.K ⑤O.M ⑭Y.M	○安全に配慮するよう言葉かけを行い、器具の準備を終えたグループから準備運動に取り組むよう支援する。 ○めあての確認・共有、元気に活動始めるかけ声のできたグループにGOを出す。 ○全体での確認については、安全面に関して2点、技の獲得に関して1点を共有し、約25分間の活動を安全に楽しく、そして技の獲得ができ喜びにつながるよう、内容を選び必要なことのみを伝えました。 ○技の獲得数が伸びている児童に対しては、ともに喜ぶ姿勢をもつことで、活動の士気を高めました。また、できた姿やチャレンジしている姿を価値付けるとともにグループで見合って活動できている姿を称賛して周りました。 ○技の獲得数が伸び悩む児童には、個別に対応しました。 ②I.K→技調べ時、欠席しており学習の仕方や資料の使い方について活動場所で再度確認をしました。始めは不安そうに活動していましたが、同グループの友だちとつながることで、技に取り組む姿が見られました。 ③M.Y→もともとマット運動が得意ではなく、本人も難しさを感じています。まずは繰り返し後転に取り組んでいる姿を称賛しました。汗をたくさんかき、友達や教師のアドバイスを素直に聞き入れて最後まで活動する姿が見られました。回る際、斜めになるところがあるので、着手の大切さに気付かせることを狙って関わりをもちました。 ○全体として技の獲得数が平均して約3個ずつ増え、25分間の活動時間の運営について自分たちでできる部分が出てきました。しかし、技の獲得数が急激に増えたことで「できた」の基準については曖昧さも見られるようになったため、次時に向けて全体で確認が必要であることも分かりました。 ○グループの振り返りの後、全体の振り返りという流れです。
	各グループで様々な工夫を話し合って実践していきます。できそうな技からチャレンジできる児童には伸びが見られました。「できるようにになりたい技」と「できそうな技」を見極め、アドバイスしていくことが大切だと感じました。 ○振り返り ・グループ（記入、シール、次時のめあて） ・全体（振り返り発表、質問、困ったこと） ・ブリッジは手に力を入れることが大切。 ・跳び前転では、前の方に手を着くのではなく、跳ぶということが大切だと感じた。 ・側転の感覚を使って壁倒立をしたらできました。感覚を掴むことが大切だと思った。	

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
第三時 七月十七日 (木)	○器具の準備、準備運動をする。 ○グループで個人のめあての確認・共有をする。 ○全体での確認事項 ・場所が変わったので、活動場所の確認と気持ちを抜かず安全第一を心掛けること。 ・技が増えることは良いことだが、「できた」のポイントが曖昧にならないように。 ○活動する。 ・技の獲得が少なかった児童 「1」→3名 ②I.K ⑤O.M ③4Y.M 「2」→2名 ②5M.S ③0M.Y ・獲得数が増えた児童のできばえチェック ⑧K.T ①1J.A ①9N.A ③3Y.T ③5W.S	○安全に配慮するよう言葉かけを行い、器具の準備を終えたグループから準備運動に取り組むよう支援する。 ○めあての確認・共有を終え、元気に活動を開始するかけ声ができたグループにGOを出す。 ○全体での確認については、初めての体育館なので落ち着いて活動すること、技に関して「できた」を曖昧に見ず、真剣に自他の技を見ることを伝えました。 ○技の獲得が少なかった児童へは、具体的に自分の課題に気付かせるよう関わりました。 ③0M.Y めあて2「後転」 ・着手してしっかりとマットを押すこと ・坂道練習の場→勢い・速さ ・目線→首や背中を丸めること ③4Y.M めあて2「後転を丸く小さくする」 ・坂道練習の場→勢い・速さ ・脚と手→使うタイミング 各グループで様々な工夫を話し合って実践している姿を認めます。自分の技だけでなく、アドバイスしたことで友達ができるようになっていくことにも喜びを感じる様子が見られました。「する」だけでなく「見る」ことや「支える」ことの大切さや喜びを感じる場面もマット運動を少しでも好きになる瞬間だと感じます。
	○振り返り ・グループ（記入、シール、次時のめあて） ・全体（振り返り発表、質問、困ったこと）	○本時では、技の獲得数が平均して約1.5個ずつ増えました。獲得した技が増えることで、次の技の難易度が上がり、25分間の活動時間で獲得する数が減ってきました。次時は、獲得した技のできばえを高めていく「めあて1」の充実に向けて関わっていくことが必要であると感じます。 ○振り返りの運営はグループごとに行います。グループの振り返りの後、全体の振り返りという流れです。

	児童の主な活動	教師の関わり・手立て
第四時 本時 七月二十四日（木）	○器具の準備、準備運動をする。 	○安全に配慮するよう言葉かけを行い、器具の準備を終えたグループから準備運動に取り組むよう支援する。
	○グループで個人のめあての確認・共有をする。 	○めあての確認・共有を終え、元気に活動を始めるかけ声ができたグループに GO を出す。
	○活動する。 めあて1 ・グループでの採点 ⑫S.K ⑭M.E 	○全体での確認には、本時では行いませんでした。技の獲得や安全面を周知するのに必要感があれば、途中で集めることとして活動を見守り、個別指導にあたりました。
	めあて2 ・技の獲得が少なかった児童 3つ以下を中心に ②I.K ⑭M.S ⑳M.Y ㉔Y.M 	○めあて1の今後の発展を狙い、グループでの採点場面に入り、市議者の見てほしいポイントや観察者の見方、採点の方法に気付かせるよう関わりました。
	・練習方法の確認 ⑭S.A ○振り返り ・グループ（記入、シール、次時のめあて） ・全体（振り返り発表、質問、困ったこと） 	②I.K めあて2「とび前転」 ・技の獲得の順番をアドバイス →よりかんたんな技を薦める ⑳M.Y めあて2「リベンジ後転」 ・着手してしっかりとマットを押すこと ・坂道練習の場→勢い・速さ ㉔Y.M めあて2「後転勢い」 ・坂道練習の場→勢い・速さ ・脚と手→使うタイミング ○グループの振り返りの中で運動の視点をを用いて話している児童を価値付け、運動の視点をを用いて話すことでアドバイスや振り返りに具体性が増すことを確認しました。
		○本時では、技の獲得が伸び悩む様子を振り返りで共有し、めあて1の充実へと移行することを確認しました。
		グループでの振り返りを位置付けることで、本時の技への取り組みについて自分と友達の情報を共有しながらの振り返りができます。そのため、動きと運動の視点をを用いた振り返りができる児童が増えました。また、本時では、技の獲得が難しくなってきたことに触れ、次時には、めあて1でできばえを高めていくことをみんなで確認しました。

G	技獲得数の変容	1	2	2時目までの合計	3	3時目までの合計	4	4時目までの合計
1	②I.K	欠	1	1	1	2		
1	⑨S.M	1	1	2	2	4		
1	⑫S.K	1	1	2	2	4		
1	⑯T.O	3	0	3	4	7		
1	⑱N.R	1	4	5	3	8		
1	⑳M.A	1	1	2	1	3		
2	①A.S	1	2	3	1	4		
2	⑤O.M	1	欠	1	3	4		
2	⑩S.T	3	1	4	1	5		
2	⑳H.K	2	2	4	1	5		
2	㉔M.E	3	2	5	0	5		
2	㉔M.Y	2	4	6	1	7		
3	⑧K.T	1	9	10	1	11		
3	㉑H.I	2	3	5	2	7		
3	㉓H.S	2	3	5	2	7		
3	㉔H.N	3	5	8	1	9		
3	㉓Y.T	2	8	10	0	10		
3	㉓W.S	7	6	13	2	15		
4	③E.H	1	2	3	2	5		
4	⑦K.H	1	3	4	2	6		
4	㉔M.S	1	1	2	1	3		
4	㉔M.R	見	見	見	見	見		
4	㉑Y.S	2	2	4	1	5		
5	⑪J.A	3	8	11	3	14		
5	⑰T.K	2	6	8	0	8		
5	㉑N.K	5	3	8	3	11		
5	㉓M.Y	0	2	2	0	2		
5	㉓Y.R	1	2	3	2	5		
5	㉓Y.M	1	0	1	2	3		
6	④O.W	3	1	4	0	4		
6	⑥K.S	4	1	5	1	6		
6	⑬S.Y	5	3	8	1	9		
6	⑭S.A	4	3	7	2	9		
6	⑮S.S	5	3	8	1	9		
6	⑰N.A	3	7	10	1	11		
	平均	2.333333	3.0303	5.205882	1.4706	6.676471		

G	めあての変容	2	3	4
1	②I.K	めあて1 前転 めあて2 後転	めあて1 前転2回連続 めあて2 後転	めあて1 前転 めあて2 とび前転
1	⑨S.M	めあて1 前転 めあて2 後転	めあて1 開脚前転 めあて2 大きな前転	めあて1 前転3回連続 めあて2 後転
1	⑫S.K	めあて1 前転 めあて2 ブリッジ	めあて1 ブリッジ めあて2 後転	めあて1 <u>ロンダート（逆向き）</u> めあて2 ブリッジ
1	⑯T.O	めあて1 三点倒立 めあて2 倒立	めあて1 まっすぐ側転 めあて2 ブリッジから立つ	めあて1 後転 めあて2 ロンダート
1	⑰N.R	めあて1 側転まっすぐ めあて2 倒立ブリッジ	めあて1 倒立からのブリッジ めあて2 倒立	めあて1 倒立 めあて2 ロンダート
1	⑲M.A	めあて1 なし めあて2 前転	めあて1 ブリッジ めあて2 前転	めあて1 前転 めあて2 後転
2	①A.S	めあて1 前転の着地 めあて2 後転	めあて1 前転を速く めあて2 とび前転	めあて1 とび前転 めあて2 開脚前転
2	⑤O.M	めあて1 前転 めあて2 とび前転	めあて1 前転 めあて2 とび前転	めあて1 とび前転、大きな前転 めあて2 倒立（ほじょ有）
2	⑩S.T	めあて1 とび前転、前転を連続 めあて2 大きな前転	めあて1 前転→後転→とび前転 めあて2 倒立前転	めあて1 倒立前転や前転を連続 めあて2 伸膝前転
2	⑫H.K	めあて1 前転 めあて2 後転	めあて1 とび前転 めあて2 大きな前転	めあて1 大きな前転から前転の連続技 めあて2 ブリッジから起き上がる
2	⑳M.E	めあて1 前転→大きな前転 めあて2 とび前転	めあて1 開脚前転を速く めあて2 とび前転	めあて1 <u>前転を3回連続</u> めあて2 とび前転
2	㉑M.Y	めあて1 前転後転 めあて2 とび前転	めあて1 開脚前転 めあて2 倒立	めあて1 大きな前転 めあて2 側転
3	⑧K.T	めあて1 側転 めあて2 ロンダート	めあて1 かべ倒立 めあて2 倒立からのブリッジ	めあて1 立ちからブリッジ（段差なし） めあて2 かべ倒立（壁から離れる）
3	㉒H.I	めあて1 前転後転 めあて2 大きな前転、開脚前転	めあて1 とび前転（跳び箱有り） めあて2 とび前転	めあて1 とび前転ふわっと めあて2 ブリッジ
3	㉓H.S	めあて1 前転後転 めあて2 大きな前転、開脚前転	めあて1 大きな前転、開脚前転 めあて2 とび前転、ブリッジ	めあて1 ブリッジ めあて2 側転
3	㉔H.N	めあて1 前転後転2回連続 めあて2 側方倒立回転	めあて1 かべ倒立7回連続 めあて2 大きな前転（赤シール）	めあて1 かべ倒立→少し離れる めあて2 倒立
3	㉕Y.T	めあて1 前転 めあて2 開脚後転	めあて1 ブリッジ めあて2 倒立	めあて1 ブリッジ歩き めあて2 かべ倒立
3	㉖W.S	めあて1 ロンダート めあて2 倒立からのブリッジ	めあて1 かべ倒立 めあて2 倒立（かべなし）	めあて1 ブリッジ歩き めあて2 かべ倒立→かべなし倒立
4	③E.H	めあて1 前転 めあて2 側方倒立回転	めあて1 側転と後転 めあて2 ブリッジ	めあて1 ブリッジ10秒 めあて2 倒立
4	⑦K.H	めあて1 前転 めあて2 とび前転	めあて1 後転 めあて2 壁倒立	めあて1 かべ倒立 めあて2 とび前転
4	㉗M.S	めあて1 前転 めあて2 ブリッジ	めあて1 ブリッジ（倒立起き上がる） めあて2 大きな前転（丸く回る）	めあて1 前転他 めあて2 <u>ブリッジ倒立</u>
4	㉘M.R	めあて1 けがのため見学 めあて2	めあて1 けがのため見学 めあて2	めあて1 けがのため見学 めあて2
4	㉙Y.S	めあて1 めあて2	めあて1 前転 めあて2 とび前転	めあて1 とび前転 めあて2 開脚前転
5	⑪J.A	めあて1 開脚前転 めあて2 ロンダート	めあて1 開脚前転 めあて2 開脚後転、ブリッジから立つ	めあて1 開脚前転→後転 めあて2 倒立
5	⑰T.K	めあて1 前転 めあて2 倒立	めあて1 とび前転 めあて2 側転	めあて1 倒立 めあて2 側転
5	㉚N.K	めあて1 側転 めあて2 開脚前転	めあて1 前転と後転（くり返す） めあて2 開脚前転（タイミング、着地）	めあて1 開脚前転をくり返す めあて2 かべなし倒立
5	㉛M.Y	めあて1 なし めあて2 前転後転	めあて1 ブリッジ めあて2 後転	めあて1 なし めあて2 <u>リベンジ後転</u>
5	㉜Y.R	めあて1 前転連続 めあて2 大きな前転	めあて1 後転 めあて2 大きな前転	めあて1 大きな前転 めあて2 開脚後転
5	㉝Y.M	めあて1 前転連続 めあて2 後転	めあて1 前転 めあて2 後転（丸く小さく）	めあて1 前転をきれいに めあて2 <u>後転いきおい</u>
6	④O.W	めあて1 後転 めあて2 開脚前転	めあて1 とび前転 めあて2 開脚前転	めあて1 とび前転 めあて2 開脚後転
6	⑥K.S	めあて1 きれいに前転 めあて2 ロンダート	めあて1 とび前転（極） めあて2 ブリッジ	めあて1 とび前転 めあて2 後転
6	⑬S.Y	めあて1 とび前転 めあて2 ブリッジ	めあて1 とび前転組み合わせ めあて2 ブリッジ（手を伸ばす）	めあて1 ブリッジ美しさ めあて2 かべ倒立
6	⑭S.A	めあて1 きれいに前転 めあて2 大きな前転	めあて1 大きな前転 めあて2 伸膝前転	めあて1 大きな前転から後転 めあて2 <u>伸膝前転</u>
6	⑮S.S	めあて1 側転 めあて2 ロンダート	めあて1 ブリッジ めあて2 ブリッジから起き上がる	めあて1 とび前転 めあて2 起き上がりブリッジ
6	⑰N.A	めあて1 側転 めあて2 後転→開脚後転	めあて1 後転、前転、開脚後転・前転 めあて2 伸膝後転	めあて1 後転→側転→ブリッジ めあて2 とび前転